

三水会会報

北里大学海洋生命科学部
同窓会会報 第 91 号

令和8年3月発行
(2026年)

編集者 磯山 直彦

発行 三水会(北里大学
海洋生命科学部同窓会)

事務局 〒246-0031 神奈川県
横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1

TEL フリーダイヤル
0120-873-135

目次	P.1	「華の会」開催報告	P.5
北里大学の近況	P.2	石の上にも20年	P.6
〃	P.3	大阪・関西万博におけるワークショップの運営報告	P.7
BBQ親睦会に参加して／「華の会」開催報告	P.4	三水会お知らせ	P.8



三陸での実習風景

三陸の近況



浪板海岸



浪板海岸



崎浜の防潮堤と海

北里大学の近況

「より一層の同窓会との連携を目指して」

北里大学副学長（学生・生涯教育・地域連携・同窓会・PPA担当）・
北里柴三郎記念博物館長・海洋生命科学部教授

朝日田 卓（9FA）

早いもので、海洋生命科学部が相模原に移転してから15年が経ちました。昨年は大船渡市で発生した大規模林野火災による甚大な被害を目の当たりにし、気候変動の恐ろしさを感じました。海洋生命科学部でも有志による募金などの支援活動を行いました。被害にあわれた方々にあらためてお見舞いを申し上げます。私の家も越喜来にありますが、近所に住む卒業生から、大事なものがあつたら持ち出しておくとの連絡があり、緊張の日々を過ごしました。また各地でクマの被害が多発し、三陸キャンパスでも警戒を厳しくしていましたが、幸いキャンパスへの出沒はありませんでした。地震を始めとした災害が各地で頻発しています。各自十分な備えと心構えで過ごしたいものです。

新千円札発行と周年事業

北里柴三郎博士の肖像が採用された新千円札の発行（2024年7月3日）は、我々同窓生にとつ

て非常に誇らしいもので、毎日財布の中を見るのが楽しみになっていた方も多いのではないのでしょうか。わざわざ一万円札を両替して千円札で財布をふくらませた同窓生もいたと聞いております。私も理事長のお供で日本銀行へ行きましたが、法人に寄贈された記番号AA00003Aの新千円札を手にした時の感慨は今も忘れることができません。

時をほぼ同じくして、北里研究所創立110周年・北里大学創立60周年・新千円札発行記念式典が開催されました。北里大学特別荣誉教授の大村智先生による講演「北里柴三郎先生の青雲の志」では、我々が大切にしている「建学の精神」の誕生に繋がる数々の秘話をお話いただきました。また本周年事業にあわせて、北里柴三郎記念博物館では特別展を開催すると共に新展示室をグランドオープン致しました。新展示室では、北里先生の愛弟子から大村先生に繋がる偉大な系譜を学ぶことがで

き、大村先生が受賞されたノーベル医学生理学賞メダル（ノーベル委員会による公式レプリカ）も展示されています。前述の新千円札は展示室1でご覧いただけます。2025年度の三水会総会時には、参加者一同に博物館を見ていただくことができましたが、まだご覧になっていない会員諸氏にも是非お越しいただきたいと思えます（入館無料）。

2025年12月には大村先生のノーベル賞受賞10周年記念式典が開催されました。北里柴三郎記念博物館では特別展を開催しており、北本の大村記念館でも常設展をリニューアルすると共に特別展を開催しております（どちらの特別展も2026年3月まで）。また関連イベントの絵画展も開いております。北里柴三郎記念博物館は2023年10月に現在のものに名称を変更し、2024年4月に東京都教育庁から博物館法に基づく「指定施設（博物館に相当する施設）」に指定されています。私も館長として博物館の発展に努めておりますが、学部で担当している学芸員養成課程の実習生を受け入れられるよう体制作りにも励んでおります。「未来につながる叡智と実践」募金も行っておりますので、同窓生各位のご支援をよろし

くお願いいたします。

大学の近況

2024年にスタートした第22期理事会は、「建学の精神を未来につなぐ」をミッションとして7つの施策と2つの特別施策に取り組んでいます。特に「研究力の強化」では、研究支援体制の再整備を進めている他、北里研究者サミットを開催し知のネットワークを生かした新たな大型共同研究の創出を目指しています。病院群では経営改革に邁進しているものの赤字脱却には至っておらず、抜本的対策が急務ですが、新聞等で報道されている様に国の制度改革がなされない日本中から病院が無くなってしまいかねない危機的状況に置かれています。相模原キャンパスでは、未来工学部、看護学部において医学部新校舎が竣工し、さらに獣医学部グリーン環境創成科学科校舎と新大学図書館が完成しました。新図書館には「ドネルカフェ」もオープンし、スターバックスコーヒーを手ごろな値段で飲むことが出来るおしゃれな空間が広がっています。

同窓会との連携

従来は副学長の職務に「同窓会担当」がありませんでしたが、同

窓会と法人・大学が一層の連携を図ることを目的に、2025年7月から「同窓会およびPPA担当」が設けられ、私とその職務を拝命しました。大学にとって同窓会は最大の支援団体ですが、ただ支援を求めるだけでは真の連携になりません。大学が同窓会に貢献できないければ、双方の発展は望めないと思います。私は同窓会担当として「できることから始める」をモットーに仕事を進めたいと思っていますが、2025年9月には早速、同窓会新潟県支部総会で講演させていただく機会を得ました。また水族館で解説をして欲しいとの要望を受け、マリンピア日本海で解説ツアーを行いました。以前は教え子が飼育員として勤務していたのですが異動してしまったこともあり、私が「わか解説員」になったという訳です。お世話になった三水会の佐藤敏行氏（3F F）を始めとした新潟県支部の方々に、この場を借りてお礼申し上げます。10月には千葉県支部のイベントに参加させていただき、多くの同窓生とお話させていただきました。支部会員ではないのにお誘い下さいました越川支部長（12F A）に感謝申し上げます。

全学同窓会事務局は、白金の北里柴三郎記念博物館の2Fにある

ので、博物館の仕事がある時は必ず事務局に顔を出すようにしています。2026年度から同窓会費の徴収が大学納付金と一緒に行われるようになりますが、このような法人・大学レベルの連携はもちろん、学部同窓会や支部総会への教員派遣やお互いの広報連携など可能な限り対応いたしますので、是非お声がけください。本格的に同窓会と連携した学生の就職支援は、同窓生諸氏が所属する企業にとっても有用と考えられますので、ぜひ進めていきたい施策の一つです。

海洋生命科学部の近況

三陸の地に水産学部が開学してから54年目となりますが、東日本大震災を機に一層進行している人口減少により、三陸では小中学校の統廃合が進んでいます。私が学生と共に20

年以上行っている越喜

来小学校での生き物観

察会「川の楽校」に参加する児童

数も減っており、始め

の頃は1つ



マリンピア日本海での水族館ツアーの様子（新潟県支部会）

の学年のみであった対象も2つの学年に増えましたが人数は逆に少なくなっています。しかし、我々を受け入れてくれる三陸の自然は変わらずにキラキラしており、多くの恩恵を与えてくれます。三陸臨海教育研究センターは、学部生の海洋実習や卒論研究などの場として活用されていますが、より一層の活用と地域貢献を目指して各種事業を行っています。同窓会員も割安で宿泊できますので（素泊まり2,500円）、ご希望の方はHPから申し込んでください。収容人数は45名ほどありますので、三陸での同窓会にもご利用いただけます。相模原キャンパスでは、学生有志によるミニ水族館「北里アクアリウムラボ」が好評で、毎日のように見学者が訪れます。夏休みや冬休みには子供たちが大勢集まり、タッチプールなどを楽しんでいきます。同窓会員が家族連れで見学に来ることも多く、大学の宣伝のみならず地域貢献も果たしています。

大学の志願者数は18歳人口の減少により徐々に減っています。本学部では総合型入試の導入やカリキュラムの充実などによる対策を行っており、2026年2月現在、志願者微増で推移しています。今後も学生にとって魅力的な学部

に進化させるべく、私学ではトップレベルの科研費採択率と教員学生比率、100%を継続している就職率など良い面を維持しながら一層の研究・教育の充実と刷新を図ってまいります。

激動の時代の真っ只中で

ウクライナ戦争が終息の兆しを見せない中、世界中で様々な問題が噴出し、ますます混沌の度合いを深めています。日本国内でも円安や物価高が国民を苦しめ、経済的に困窮する学生も増加しています。まさに激動の時代と言えますが、明治維新に始まり戦争や災害、ペストやコレラなどの流行と続いた北里柴三郎博士の時代と重



千葉県支部会での集合写真（屋形船）

なるところがあるのではないで
しょうか。この時代を生き抜くた
めに我々が手本とすべきは、やは
り学祖の生きざまかと思えます。
冒頭に述べました周年事業の式典
における大村先生の講演録や北里
柴三郎記念博物館が関わって出版
された書物、および記念博物館の
展示を通じて人としての魅力にも
富んだ学祖の生きざまを知ってい
ただければ幸いです。

B B Q 親睦会に参加して

大池（柴田）晴佳（34 F M）



9月13日（土）に北里大学相模
原キャンパスで開催されましたB
B Q 親睦会に参加して参りました。
我が家からは、私と夫、子ども
の4人で参戦しました。私は久々

の大学に行き、先輩や後輩に会え
るのが楽しみでしたが、子どもた
ちは楽しめるのかな？と不安でし
た。

しかし、その不安はあつという
間に解消されました！子どもたち
は、現役の学生のお兄さん・お姉
さんと鬼ごっこやお絵描きなどで
いっぱい遊んでもらい、卒業生の
皆様にはお土産などをいただき：
子どもたちが一番楽しんでいるの
では？と思うほどでした。今回、
私のほかに、3組が子どもを連れ
て参加しており、参加者の最年少
は0歳！子どもも総勢8人で、に
ぎやかでした！帰り道、子どもた
ちからは『次はいつB B Qやるの？
あのおじちゃん来る？』と次回
を楽しみにする声もありました。

私は、恩師である朝日田先生・
井田先生をはじめ、久々にお会い
した先輩・後輩と近況などを話せ
て、とても有意義な時間となりま
した。先輩方の話は、社会人生活
で役に立つことばかりで、三陸で



の思い出も話せてうれしかったで
す。今回、私の要望に付き合っ
てくれた家族、子連れを快く受け入
れてくださった皆様には感謝で
す。ありがとうございます。

現役生と卒業生を結び付けてく
ださるB B Q 親睦会。家族で参加
ももちろん可能です！次回もたく
さんの卒業生・ご家族・現役生の
皆様にお会いできるのをとても楽
しみにしております。

『輩の会』開催報告

〈酒井隆一先生

退官記念パーティー
（水産資源化学研究室同窓会）

2025年9月14日、酒井隆一
先生の退官記念パーティー『輩の
会』を北里大学海洋生命科学部の
卒業生らで開催いたしました。我
らが酒井先生は、2008年3月
で北里大学をご退職され、現在は
北海道大学水産科学研究院で教授
を務められています。



当日は、総
勢62名の皆様
にお集まりい
ただき、タイ
ムスリップレ
たかのような

楽しい時間を共有することが出来
ました。会費をちゃっかりいた
きながらもゲストとしてお越しい
ただいたのは、佐藤繁先生（しげ
るちゃん）、小池一彦先生（こい
けせんせい）、神保充先生（じん
ぼ；当時講師）。神谷先生（北
里水産の良心；当時教授）は、メッ
セージでのご出演となりました。
その他、酒井先生に縁の深い皆様
にもお声がけして、懐かしの酒井
チルドレンが大集結。本当に素敵
な時間を共有出来たのではない
かな、と感じています。

会場は東京のブラウアウター
フェル竹芝店。『輩の会』のドレ
スコードには「カジュアル（スー
ツ・ネクタイはご遠慮ください）」
をお願いし、かしこまった宴では
なく、三陸時代を思わせる雰囲気
で集結した我々です。会場では、
事前に参加者の皆様からご提供い
ただいた懐かしい三陸時代の写真
をスライドショーとしてモニター
に投影し、久しぶりに再会した先
生方や旧友との語らいに温かな彩
りを添えました。

司会は、酒井班（生理活性班）
に所属していた信田裕美さんと堀
見佳代さん（2004年度卒業）
のお二人にお願いし、15：30の
スタートから18：00完全撤収まで、
『輩』な私たちをしつかり引ッ

張ってもらいました。

乾杯の音頭は神保先生。でも、懐かしの写真スライドショーをつけばなしにしたせいで、グデグデに・・・。何かに興味を惹かれると人の話を聞かなくなっちゃう、私たちウン十年たってもホント変わってなかったです。神保先生ごめんなさい・・・！

小池先生が語ってくれたのは、濃いうい三陸時代のお話。「サングの汁の入った、まるで桃の天然水」事件や、神谷先生には噛みついたのに佐藤先生には完全に掌握されていた酒井先生の愛犬「パチズ」のこと。酒井先生のキャラは神保先生によってより増幅されていた説。そのお二人を三陸に招いて水産資源化学研究室を運営されていた神谷先生はやはり凄いという話。酒井先生はポジティブだという話。「それ、めちやくちゃ面白いじゃん」という酒井先生のセリフが酒井先生を物語っているよね、ていうか、面白いこと以外に脳が動いてないんじゃないか説も飛び出しました。みんな、激しく同感。

続いては、佐藤繁先生。はじめこそ「礼儀正しい、行儀のいい奴だなあ、と思ったんです」と。でも、「次の日から大変、もう」。兎玉先生の影響を色濃く受けた酒井

先生の、ここではお話しできないエピソードの数々。でも、ちゃんと研究のお話につないでいただいて、酒井先生の研究者としてのカッコよさを改めて感じる事が出来ました。

神谷先生からのメッセージを読み上げていただいたのは、酒井先生がご着任した際にポストクとして水産資源化学研究室に在籍されていた坂本節子さん。学会にTシャツ短パンで現れた酒井先生を驚愕のまなざしで見つめていた当時の感想も交え、代読してくださいました。

その他にも、研究材料のサンプリングでお世話になったダイビングショップNature's Way (@ヤップ島) のスーさんからメールでお便りが、酒井先生の長年の共同研究者であるGeoffrey T. Swanson先生 (@ノースウェスタン大学) から先生へのお祝いのビデオメッセージが届きました。Swanson先生の12分に渡る動画メッセージでは、研究で繋がるカッコイイ大人の友情がたくさんのエピソードとともに披露され、参加者全員が食い入るように見入る、感動的なひとときとなりました。

楽しい時間はあっという間に過ぎるもので、すぐに会も終盤へ。酒井先生からのご挨拶の時間

になりました。酒井先生のお話は楽しく長い！（笑）なので、なかなか上手くまとめられませんが、酒井先生節をみんなで真剣に聞き入るという構図は、今も昔も全然変わっていませんでした。「お前からホント、馬鹿。笑」と言いながら、「今、北海道大学でやっている研究のベースは全部、北里の時の研究。」なんて言ってくれちゃう酒井先生。三陸という山と海だけの教育環境の中で「なんか面白いぞ」ってことを見つける、それが私たちの強みだと言ってくれる酒井先生が、私たちはやっぱり好きでここに集まったんだなあとと思わされるひと時でした。建前じゃなく本当に自分が興味を持ったことに没頭した、そんな人間が今日ここに集まっている。面白いとか楽しいとか、そういうことが人生のドライビングフォースで世界中に通用するんだよ、ってことを教えてもらった時間でした。

記念品は、Baccaratのペアグラスと山崎ウイスキー。ウイスキーのボトルには、みんなで当時の呼び名をサインしました。贈呈役には、研究室内で結婚された小粥ファミリーにご登場いただきました。酒井先生も「僕の大好きな一家です」と。その後、個人的なお土産お渡しタイムを経て、記念撮影へ。

3時間にわたって繰り広げられた懐かしい時間は終了となりました。その後の二次会、三次会のお話は、風の噂でお楽しみください。

さて、次の集合は7年後、神保先生退官式になるでしょうか。それに備えて資源同窓の皆様へお願いがございます！三水会の登録情報を改めてご確認いただけますでしょうか。「水産資源化学研究室」って、ちゃんと登録しておいで下さいますよう、どうぞよろし



くお願いいたします。

最後になりましたが、当日ご参加いただいた皆様、司会のお二人、会の運営をお助け隊として支えてくださった一部の2002年度卒業メンバー、そして参加かならず遠くから見守っていただいた皆様に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。皆様のおかげで、酒井先生からも「マジで楽しかった」と言ってもらえる良い会にすることが出来ました。ありがとうございました。

令和7年9月某日

輩の会代表 湊早樹子・吉田和史・松永智子



石の上にも20年！

水族病理学研究室

筒井 繁行



三水会会員の皆様、ご無沙汰しております。病理の筒井です。突

然ですが、わたくしが三陸キャンパスに赴任したのは2005年4月のこと。という事は、なんと今年が20年目のシーズンという事になります。という事は、つい先日成人式を迎えた学生さんがオ

ギャーと産まれた年にわたくし教員になったのですね！あまりのショックに「という事は」を3回も繰り返してしまいました。。。

赴任当時はピチピチの32歳だったわたくしですが、現在は順調に老化（本人は『成長』と言い張っております）の一端を辿っております。4〜5年前からすっかり老眼で、今日もバカでかいモニターとにらめっこしながらこの原稿を書いています。白髪は、、同世代ライバル？のKB山先生、M澤先生、Y田先生よりは少ないぞ？嫌いな言葉はアカウント、サイイン、パスワード、ペイペイ、居酒屋さんの『スマホからご注文下さい』。。。うーん、どんな時代について行けなくなってるなあ。。。

日常生活ばかりでなく、研究面でもトトロとレトロ路線を歩んでおります。今の時代、次世代シーケンサーやTOF-MSを用いた遺伝子・タンパク質解析、環境DNAにシングルセルRNA-seqなどなど、ビッグデータを網羅的に解析するやり方が主流となりつつありますが、安心してください！筒井はタンパク質をエッチラオッチラ精製し、機能を調べる（そして大抵は想定した機能は示さず、打ちのめされる・・・）という、一昔前の大道を堂々と爆走（逆走？）

しております。特に大学院生時代から取り組んでおり、今ではライフワークとも言うべき魚類体表粘液、いわゆるぬるぬるの研究には生き甲斐を感じております。『ね・ん・え・きー』なんてステキな響きでしょう！

そんな粘液に関する研究も、年齢と共にマイナーチェンジしております。若い？頃は粘液中のレクチン（細菌などを凝集してやつつけるタンパク質）や抗菌ペプチド（細菌なんか穴をあけてやつつけるペプチド）の単離や性状解析に執念を燃やしておりましたが、ここ10年くらいは粘液中の物質と寄生虫の関係に興味を抱いております。例えばトラフグのエラに寄生する「エラムシ」という寄生虫がいます。こいつはフグのエラから血をチューチュー吸って成長するためフグが貧血で痩せてしまい、人間様が食べるお肉の部分が減るばかりか、養殖場でしばしば大量死を引き起こす厄介な寄生虫です。そんなエラムシですが、実は寄生虫界ではちょっとした有名な、いや有名虫です。というのもこのエラムシは超絶トラフグ『の』な寄生虫で、トラフグ以外の宿主には寄生しません、ということができます。

この寄生虫は卵から孵化する

と、体の表面に生えている繊毛をピョピョ動かして自力で泳ぎ、トラフグにたどり着くと繊毛を脱ぎ捨てて変身し、寄生生活に入ります。そこにいるお魚がタイやヒラメだと変身しません。ではエラムシの赤ちゃんはどうやってトラフグとそれ以外のお魚を識別しているのでしょうか？

エラムシの赤ちゃんにとって、粘液は最初にお魚と接する場です。わたしたちはトラフグの粘液の中に、目印となるスペシャルな何かがあるとの仮説を立てました。いろいろ実験したところ、なんとトラフグ粘液中の「 α 」という抗体がこの目印だということを突き止めました。抗体と言えばコロナ禍以来すっかりおなじみの防御因子です。本来ならトラフグにとって強烈な武器となるハズの抗体を、エラムシはまんまと寄生のトリガーとして利用していることになりました。おそろべし寄生虫！この成果は東京大学・福井県立大学と共同で国際誌にブチ乗せることができました（だいぶ前ですが）。その後は近畿大学との共同研究で交配種と寄生虫について研究を進めています。例えばクエタマはクエとタマカイ（南方系の大型のハタの仲間）のハイブリッドですが、お父さんとお母さんより

もマハタハダムシに強いことが知られています。この寄生虫は名前の通りハタ科魚類の皮膚に寄生するのですが、そこにはそう、『ねん・えき』がありますよね……。そこでこれら3種の粘液タンパク質を比較したら、やっぱりクエタマはレクチンの発現量がズバ抜けて多かったのです！おそらくこれが寄生虫に強い原因でしょう。

こうした『寄生虫が付きやすい・つきにくいという現象』を分子レベルで説明するには、地道に泥臭くタンパク実験を進める他ありません。スマホやPCを使いこなせなくてもなんくるないさー！今日も筒井は元気に老体にムチをビシバシ打ち込んで実験をしているのであります！！

定年まであと10年ちよつと。化石になるまでがんばりマスー！追伸・成長？に伴い、声が甲高くなりました。どうやら声変わりのようです（笑）！

大阪・関西万博におけるワークショップの運営報告

海洋生命科学部4年 森 陽香

この度、大阪・関西万博において、所属する「魚と子どものネットワーク」主催の親子向けワー

クショップ運営に携わりました。ゴールデンウィーク最終日の5月6日、熱気に包まれた会場での経験は、これまでの学びを社会へ還元する貴重な機会となりました。本稿では、事前準備から当日の風景、そして活動を通じて得た学びについてご報告いたします。

今回の活動は、開催数ヶ月前の準備段階から始まりました。万博の公式HPに掲載されるプログラムの説明文の英文作成です。これまで私にとって英語は、主に意思疎通を図るためのツールでした。しかし、万博における公式情報を扱う中で、初めて自分の語学力が公的な形で役に立つという実感を得ることができました。いかに正確に、かつ魅力的に伝えるか。試行錯誤を重ねて完成した英文が公式より発信されたことは、大きな達成感となりました。

当日実施したのは、「ミニチュ

アアクアリウムづくり」です。

主役は、普段私たちの団体が保全活動に取り組んでいる淡水魚、「ヤリタナゴ」です。プログラムは、その生態や現状に関



する解説と、生体観察を経て、アアクアリウム制作へと移るという流れで行いました。子どもたちは、ヤリタナゴの模型に色を塗る際、何度も水槽の前へ足を運んでその姿を食い入るように見つめ、夢中で筆を動かしていました。

アアクアリウムの装飾には、水草や石だけでなく、実際に清掃活動で回収したリアルなゴミも用意しました。家族で協力して制作する方や、親子それぞれで自分のこだわりを形にする方。向き合い方は様々でしたが、完成した水槽にはどれも参加者の想いが反映された、唯一無二のアアクアリウムが表現されていました。

魚に目を輝かせる子どもたちの姿を見ていたとき、ふと思いついたのは十数年前の自分自身の姿です。私自身、幼い頃にこうしたワークショップで自然の魅力に触れたことがきっかけで生物への想いを募らせ、現在、大学で海洋生物を専攻する道を選びました。かつては「教わる側」だった私が、22歳の今、万博では「伝える側」として立っている。目の前の子供たちが、将来の研究者や自然保護官などになるかもしれない。そう思うと、一つひとつの交流が非常に感慨深く、誇らしいものに感じられました。

後日、参加された親御さんから大変嬉しい感想が届きました。帰宅後のお子さんが「自分の家に知らない人がゴミを捨てたら嫌だし、生きていけない。ヤリタナゴさんにとつての川は家だから、人間のゴミがあると生きていけないね。」と話していたというのです。ワークショップに込めた「水環境について考えるきっかけに」という想いが会場の枠を超え、ご家庭での会話として繋がっている。私たちの意図が伝わっていることを再確認し、スタッフ一同、胸が熱くなりました。

今回の助成金は、会場への交通費として活用させていただきました。温かなご支援のおかげで、万博という場所で自身の原点を再確認し、次世代へ繋ぐ経験を得ることができました。この経験を糧に、専門の学びと社会貢献の双方に精進してまいります。最後になりますが、

この度は貴重な助成金を賜り、誠にありがとうございました。ご支援いただいた三水会の皆様に、厚く御礼申し上げます。



■「水産学部卒後30年の集い」のご案内

水産学部12期～16期（1987年～1991年）卒業生を対象とした集い（講演会及び懇親会）の開催を予定しています。詳細につきましては、2026年9月発行の三水会会報（第92号）及び三水会HPでご案内します。

開催日時：2026年10月24日（土）13時～ ＜予定＞

開催場所：北里大学相模原キャンパス海洋生命科学部校舎（神奈川県相模原市南区北里1-15-1）

■ 2026年度三水会定期総会のご案内

以下により2026年度三水会定期総会を開催します。代議員はもとより一般会員の方も是非ご参加ください。

開催日時：2026年5月23日（土）15時～

開催場所：北里大学白金キャンパス薬学部校舎（東京都港区白金5-9-1）

【注】ご参加の方は、開催場所等の詳細を三水会事務局でご確認ください。

TEL：0120-873-135 <http://kitasato-sansuikai.jp/>

議 事：1. 2025年度事業報告及び収支決算報告 2. 2025年度監査報告
3. 2026年度事業計画及び収支予算 4. その他

※総会終了後、講演会及び懇親会を予定しています。

■ 北里大学海洋生命科学部同窓会（三水会）会員登録データの変更・追加フォーム

ご卒業生の皆様の会員登録データの変更・追加申請は、パソコン・スマートフォンから可能となりましたので、以下のフォームからご登録ください。

なお、当該フォームは、株式会社フューチャースピリッツの「フォームメーカー」というサービスを利用しています。

○会員登録データの変更・追加フォーム

<https://business.form-mailer.jp/fms/559c3b1b254834>



■ 同期会、クラブOB会、研究室同窓会等の集会を開催予定の方へ

三水会では、正会員の同期会、クラブOB会、研究室の同窓会等を開催される場合、以下の助成を行います。

【会員管理システム利用申請書】を事前に提出すると、審査の結果、名簿の一覧やDMラベルの提供が受けられます。（DMラベルは一部有料となる場合があります）

【三水会同期会等助成金申請書】を事後に提出すると、1団体10万円を上限に、10名以上の集会に対し会員1名あたり1,000円の助成が受けられます。（交付は審査の上、1団体・年度内1回までの利用とする）

同期会、OB会等の集会情報は、三水会会報や三水会HPに告知掲載することができます。（申し込み等、詳細については三水会事務局までお問い合わせください）

なお、助成金の交付を受けた団体等は、交付後活動内容を三水会会報に寄稿するものとします。

詳細等、申し込みにつきましては、事前に三水会事務局までご通知ください。

○E-mail：information@kitasato-sansuikai.jp

○TEL：0120-873-135

■ 年会費納入のお願い

北里大学同窓会は、会員の皆様の会費収入で運営されています。会員の皆様のご理解とご協力をお願いします。卒業10年後（11年目）から年会費制度が実施されています。

年会費は北里大学同窓会会報に同封の振込用紙、又は以下まで納入くださいますようお願いいたします。（必ず会員番号とお名前を明記してください）

※会員番号が不明な方は、卒業年・学部を、又は北里大学同窓会事務局までお問い合わせください。

口座番号（ゆうちょ銀行）00100-8-574703

他の金融機関からお振込みの場合 銀行名：ゆうちょ銀行 金融機関コード：9900

店番：019 預金種目：当座 店名：〇一九店（ゼロイチキュー店） 口座番号：0574703

加入者名：北里大学同窓会年会費口 振込金額 1年分（5,000円）5年分（20,000円）

早いもので桃の節句も過ぎ、いよいよ春の訪れを感じる季節となりました。

三水会では、今秋に相模原キャンパスにおいて、12期生から16期生を対象とした「卒後30年の集い」の開催を企画しました。会員の皆様の親睦を図るための一助となればと思いますので、是非とも多くの方に参加していただきたいと思います。

また、今年は東日本大震災15年になります。東日本大震災の教訓を決して忘れることなく、いつ発生するか分からない地震への備えをしていただきたいと思います。

4月から新生活が始まる方も多いかと思います。皆様にとって実り多き一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。